

平成 27 年 10 月 15 日

素盞鳴神社と片岡別宮

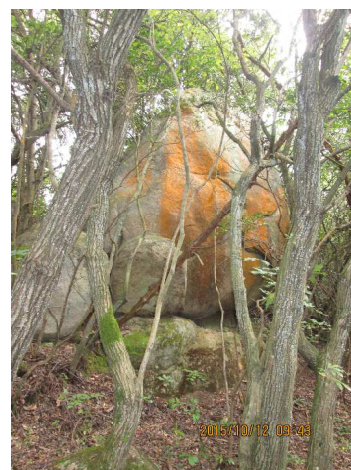
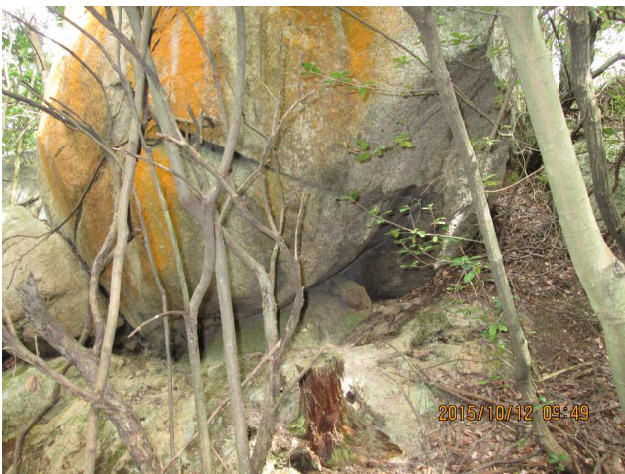
先史古代研究会 丸谷憲二

1 はじめに

10 月 4 日の先史ウオークで、野崎豊氏から東片岡の最も古い重要な神社として、素盞鳴神社(岡山市東区東片岡)と妹岡八幡宮(岡山市東区東片岡 980)を案内していただいた。素盞鳴神社は地図に無い神社であり、二つの神社は隣り合う山上の神社である。古代においては隣り合う島である。

2 素盞鳴神社

縄文時代から古墳時代にかけて、自然の磐そのものを活用し、神社のご神体となっている磐座(いわくら)である。素盞鳴神社と刻されている。他に、陰陽石信仰を確認した。10月12日に再訪問したが甕穴は発見できなかった。甕穴(おうけつ)とは河底や河岸の岩石面上にできる円形の穴(pot hole)である。数万年もの長い月日をかけて、自然が作り出した大彫刻である。六畳岩を中心とする磐座信仰であり橋詰集落の氏神様である。



10月15日に橋詰集落を訪問し聞き取り調査した。山の名前は伝承されていない。「おぎょん様」の春祭りを4月の第一日曜日に集落のみで実施し当日は幟を立てる。「おぎょん様」の意味は伝承されていない。「おぎょん様」とは、「京都の八坂神社の末社では牛頭天王(インド祇園精舎の守護神・ご神体は素戔鳴尊)が祀られており、祇園祭が執り行われている。

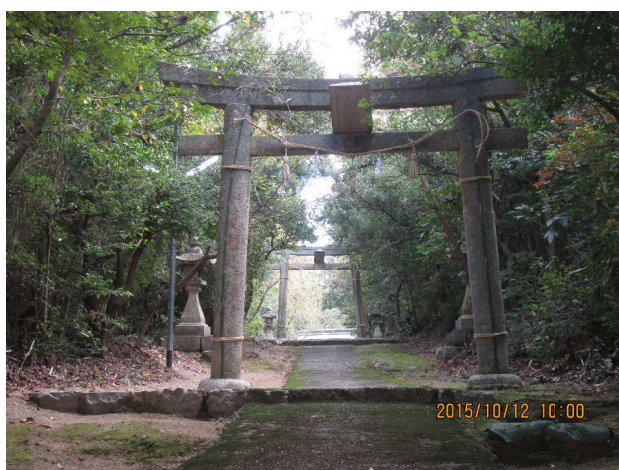
各地に疫病が流行したとき祇園神を祭り災厄の除去を祈った。各地で「おぎょんさま」と呼び親しまれてる。八坂神社の祇園御霊会（ごりょうえ）は、7月1日の「吉符入」にはじまり、31日の境内摂社「疫神社夏越祭」で幕を閉じる。1ヶ月にわたって各種の神事がくり広げられる。

3 妹岡八幡宮と片岡別宮

岡山神社庁のHPには、由緒として文治2年（1186年）8月山城の国男山八幡宮より勧請。片岡八郎常春の居住（大着山城内）より5～6町離れ丑寅の方角に当たる入賀の郷、妹岡山に守護神として奉斎。明治42年12月、近郷の村社（片岡別宮天神・宝伝神社・天津神社・宇賀神社・山神社・飯盛神社）を合祀するとある。妹岡八幡宮の特色は3本の鳥居にある。



1の鳥居 八幡宮



2の鳥居 天津神社



3の鳥居 天神宮



末社 片岡別宮天神

3.1 片岡別宮

別宮とは、本社または本宮に付属して別に設けられた神社であり、『わけみや』である。大正14年 安仁神社社務所発行の『国幣中社式内安仁神社御由緒調査書』に、「本宮由緒社として、片岡別宮、称姫崎宮 妹岡山片岡別宮の社地へ山城国男山より勧請。」とある。天神の鳥居・天神宮が本殿に近い3の鳥居である。『邑久群神社誌』に、「片岡別宮、祭神彦五瀬命（ひこいつせのみこと）后神、往昔五瀬命此吉備国に玉軍を滞留玉ひし時、此地

に天神を祭祀り玉ひし旧跡なり。因て後世に至り社殿を建営すと伝えたり。」とある。后大神数年住給ひし地たる故に妹岡山といふ。『社記』。

彦五瀬命とは、『日本書紀』では「彦五瀬命」のほか「五瀬命（いつせのみこと）」、『古事記』では「五瀬命」と表記される。初代神武天皇の長兄である。鷗鷺草葺不合尊と、海神の娘の玉依姫との間に生まれた長男である。

3.2 大歳下池と「大歳祭壇跡碑」

神社関連地名として大歳下池がある。大歳とは大歳神を祀る大歳神社の跡地である。日本神話の大年神（おおとしのかみ）と陰陽道の太歳神（たいさいしん）である。

大歳下池を探して、 「大歳祭壇跡碑」の石碑を発見した。昭和41年5月の建立である。昭和41年までは、大歳神社の伝承が地元に残っていた。



大歳下池



「大歳祭壇跡碑」



奥に小さく見えるのが安仁神社

3.2.1 大歳神と「太歳干支」

『古事記中巻』は「吉備の高嶋宮に八年坐しき」のみで年号表記は無い。『日本書記』のいくつかの条には「是年太歳〇〇年」として、「太歳干支」が記載されている。「太歳干支」とは、十二年で太陽の周りを一巡する歳星（木星）の運行と逆方向に向かう化想の天体のことである。太歳紀念法（歳陰紀念法）と呼称されている。太歳甲寅を西暦年に換算して紀元前666年としている解説書がある。しかし、「史実としての年号は、太歳干支とは無関係な年代にある」と倉西裕子氏は報告している。

『先代旧事本紀大成経七十二卷本』「卷第十六 天孫本紀下」の吉備國行館記録は「大歳在」で始まる。大歳神とは、『古事記・神代記』の説明では「速須佐之男命が大山津見神の娘、神大市比売に娶って生まれられた御子である。宇迦之御魂神は兄弟神」である。大歳神は五柱の御子神をもうけられた。

『先代旧事本紀大成経七十二卷本』の「先代旧事本紀卷第十七 神皇本紀上卷上 神武天皇」にも、「大歳在」の記録が3ヶ所ある。

大歳在二於甲寅一、冬十月丁巳朔辛酉、天皇親師二諸兄諸皇子等一、・・・大歳在二己未一、二月辛卯朔丙辰、導臣命率二地来目部一、・・・大歳在二於庚申一、秋八月癸丑朔戊辰、天尊将立二正妃一、・・・

3.2.2 大歳（大年）神社

姫路市東部に大歳（大年）神社が30社、中部に10社が集中している。兵庫県には神戸を中心に大歳神を祀る大歳（大年）神社が380社ある。大歳（大年）神社とは大歳神を祀る神社である。

『延喜式神名帳』には山城国乙訓郡、大和国高市郡（二座）、和泉国大島郡、遠江国長上郡、但馬国二方郡、岩見国那賀郡（島根県江津市都野津町の式内社大歳神社）に計七座の大歳神社が記録されている。

現在も大歳（大年）神社は、中部以西に広く分布しているが東日本には比較的少ない。岡山県の大歳神社は、真庭郡新庄村と笠岡市馬飼・絵師・金浦・飛島にあり、大歳天神社が浅口市鴨方町本庄にある。大歳天神社は、最初は兄弟神である宇迦大神の山上に鎮座し二度目に遷座した社地に大歳という字が残っている。

4 まとめ

縄文時代から古墳時代にかけての自然の磐、磐座である素盞鳴神社の公開が先史ウォークの最大の成果である。片岡別宮の調査過程で、大歳神社の旧跡、大歳下池と「大歳祭壇跡碑」を発見した。位置関係からかなり大きな神社と推定する。

5 謝辞

素盞鳴神社は地図に無い神社であり野崎豊氏に案内してもらわないと存在すらわからなかった。「橋詰集落の氏神様である。」と調査の糸口を辻野喬雄氏に教示していただいた。片岡丈博氏より、「橋詰地区については、藤井川を境に朝日地区（東片岡）と幸島地区（東幸崎）に学区が分かります。また、東西に流れる藤井川、南北の幸島用水とも交わっており、ここに架かる橋が地名の由来ではないかと推察されます。当地は、東片岡から藤井（西大寺一宮）を経て、千手（せんず）牛窓へ至る旧道沿いで、戸数の約半数が片岡姓です。片岡姓は朝日地区の代表的な姓で、近くに片岡八郎常春を祀る片岡八幡宮（東片岡・宮ノ尾）があります。また、周辺にも八幡宮の別宮、安仁神社等があり、往時は地区の中心地ではなかったかと思慮されます。」との教示を得た。

6 参考文献

- ① 『国幣中社式内安仁神社御由緒調査書』大正14年 安仁神社社務所
- ② 『吉備（黄蕨）国・高嶋宮伝承の解析』平成20年10月28日 丸谷憲二
- ③ 『改訂邑久群史 下巻』昭和29年 邑久群史刊行会
- ④ 『地図』昭和44年 中島平和堂